

大会名 Competition	バスケの街能代記念事業 能代工業全国大会初優勝から50周年メモリアルイベント				
NQ M1	Year	Month	Day	Time	
	2017年	6月	10日	15:00	
場所 Place	能代市総合体育館				

NOSHIRO BASKETBALL

主審: Referee
谷地 温 秋田 S
第1副審: 1st Umpire
久米 克 弥 秋田 S
第2副審: 2nd Umpire
水木 順 仁 秋田 A
テーブル・オフィシャル: Table of officials
秋田県立能代松陽高等学校
女子バスケットボール部

チームA 能代工高 OB選抜 86 ○	<table border="1"> <tr><td>23</td><td>1st</td><td>20</td></tr> <tr><td>19</td><td>2nd</td><td>7</td></tr> <tr><td>19</td><td>3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>25</td><td>4th</td><td>23</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	23	1st	20	19	2nd	7	19	3rd	16	25	4th	23	OT			チームB 能代工高 66 ●
23	1st	20															
19	2nd	7															
19	3rd	16															
25	4th	23															
OT																	

Nb.	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	Nb.	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	× 畑 山 陽 一	CAP	3	1	0	0	0	4	× 児 玉 凛 斗	CAP	21	3	6	0	1
5	× 満 原 優 樹		15	3	3	0	0	5	× 児 玉 海 渡		10	0	5	0	2
6	× 菊 地 勇 樹		9	3	0	0	1	6	× 新 田 由 直		6	0	3	0	2
7	× 内 海 慎 吾		8	2	1	0	1	7	/ 石 田 淳		0	0	0	0	1
8	× 山 田 謙 治		1	0	0	1	2	8	/ 守 屋 壮 次 郎		3	0	1	1	1
9	/ 北 向 由 樹		5	0	2	1	0	9	× 斎 藤 創		14	0	6	2	2
10	/ 佐 々 木 優 希		2	0	1	0	2	10	× 牧 野 湧		12	0	5	2	3
11	/ 二 田 洋 志		4	0	2	0	1	11	佐 藤 侃		-	-	-	-	-
12	梁 川 禎 浩		-	-	-	-	-	12	高 橋 日 向		-	-	-	-	-
13	/ 長 谷 川 暢		11	0	5	1	2	13	/ 伊 東 翼		0	0	0	0	0
14	/ 館 山 健 太		7	0	2	3	1	14	秋 元 淳 之 介		-	-	-	-	-
15	/ 佐 々 木 健 登		4	0	2	0	1	15	粟 屋 颯 太		-	-	-	-	-
16	/ 富 田 敏 幸		2	0	1	0	0	16	阿 久 津 穰		-	-	-	-	-
17	/ 西 山 達 哉		13	3	1	2	0	17	遠 田 貴 大		-	-	-	-	-
18	/ 武 藤 修 平		2	0	1	0	1	18	須 藤 陸		-	-	-	-	-

コーチ 内海 知 秀
アシスト 長谷川 誠
合 計

コーチ 柴田 直 宏
合 計

※ ×: スター /: 交代選手 PTS: ポイント 3P: 3P射撃 2P: 2P射撃 FT: フリースロー F: ファウル

2年ぶりに全国大会への出場権を獲得した能代工高現役チームと能代工高OB選抜チームの一戦。両チームともゾーンディフェンスでスタート。OBチームが#6菊地の3ポイントシュートで先制。現役チームは#5のシュートと追いつくと、両者ともに無得点の時間帯が続く。均衡を破ったのは、現役チーム#4。3ポイントで逆転に成功するとその後も順調に得点を重ねていく。対するOBチームは#4畑山、#6菊地に代え、#13長谷川、#9北向を投入すると同時に、マンツーマンディフェンスに切り替え、流れを呼び込もうとする。一進一退の攻防が続く中、OBチームは落ち着いたボール回しから、#7内海の2本の3ポイントシュートなどで着実に得点し、再逆転に成功する。第1ピリオド終盤には#7内海、#8山田に代え、アウトサイドからの得点力が高い#14館山、#17西山を投入。傾きかけた流れを一気に流れを引き込もうとするが、現役チームも必死に守り、OBチームが23対20の僅差で第1ピリオド終了。第2ピリオド。現役チームは得点を奪うことができない苦しい展開となる。OBチームはメンバー交代をしながらゲームの流れをコントロールし、確実に得点を重ねる。現役チームは#4の3ポイントシュートやジャンプシュートで食らいつくものの、このピリオド、9得点しかできず、42対27と大きくリードを許し、前半を終了する。

第3ピリオド。両チームとも2-3ゾーンディフェンスでスタート。現役チームは#10の4連続得点で反撃を開始する。OBチームは、#6菊地が1本、#5満原が2本の3ポイントシュートを決め、一気に得点を引き離す。#5満原の2本目の3ポイントシュートが決まった時点で、現役チームはタイムアウトを要求し流れを断ち切ろうとする。タイムアウト後、現役チームはディフェンスの圧力を強め、OBチームのミス誘うことに成功し、#4の連続得点、#5のインサイドの得点などで追いつく。対するOBチームはメンバー交代やディフェンスをマンツーマンに切り替えるなどして、流れを渡すことなく、61対43とリードを広げてこのピリオドを終える。第4ピリオド。OBチームの厳しいディフェンスの前に現役チームはタフショットを連発する。OBチームはこのチャンスを生かし、#13長谷川のファーストブレイクなどで得点を重ねる。現役チームが攻めあぐねる一方、OBチームは#14館山のドライブ、#17西山の3ポイントシュート、#18武藤のミドルシュート、オフェンスリバウンドからの得点など、多彩な攻撃で着実に得点を伸ばしていく。試合終盤に入ると、現役チームは果敢にゴールヘアタックを始める。簡単に得点を取ることはできないものの、チーム一丸となりオフェンスリバウンドやルーズボールに食らいつき、泥臭く得点を重ねることに成功する。"能代工業らしさ"が垣間見られ、会場の雰囲気も盛り上がりを見せる。OBチームも試合終了のブザーと同時に#4畑山がこの日、自身初得点となる3ポイントシュートを決め、会場を大いに沸かせて試合を締めくくった。